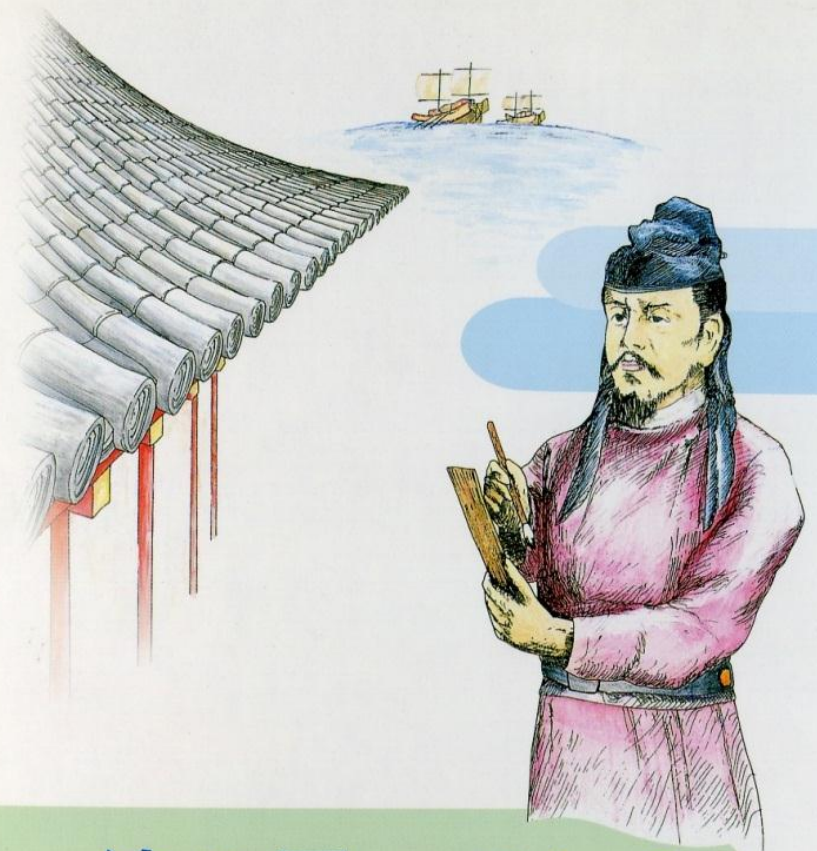


発行 豊中市教育委員会
1999年3月31日発行
編集 社会教育課文化財保護係
印刷 図書印刷株式会社



とよなか文化財ブックレットNo.7 通史編Ⅶ



津の国 てしま

—ながめてみよう 奈良・平安時代のとよなか—

ようこそ！津の国へ

けんた やよいちゃん、ぼくらが住んでいる豊中市は奈良時代になんてよばれていたか知ってる？

けんた 摂津国豊嶋郡でしょ。

やよい じゃあ、けんた君、摂津にはべつの名があります。それはなんでしょう。

けんた えー！わからないよ。

けんた 答えは表紙。タイトルの「津の国」っていの。

やよい へえー、すこしおかしい名前だね。

けんた ところでやよいちゃん、このページの風景はごたろう。

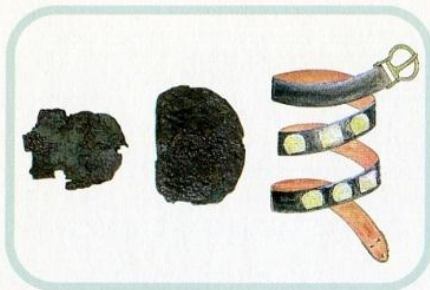
けんた この風景は、そのころのとよなかをそうぞうしたもののなの。

やよい へえー。いろいろな建物とかもありそうだし、しらべてみたらおもしろそう。

けんた じゃあ、しらべてみよう。

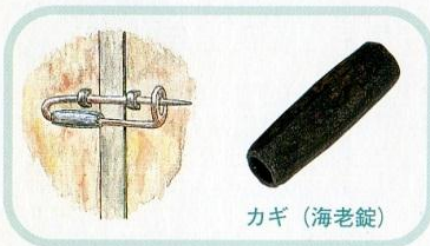


ベイエリア 上津島



ベルトのかざりとカギ

ベルトのかざりは、くらい（位）に応じてめうや銅などの素材でつくられ、役人たちのシンボルになりました。カギは海老錠と呼ばれるもの。中に棒状のカギをさしこんで使います。



カギ（海老錠）



上津島南遺跡の建物（復元図）

上津島遺跡
上津島南遺跡
島田遺跡



上津島遺跡とその周辺

古代のベイエリアに推定されている遺跡は、3つの遺跡は、もともと弥生時代終わりころ、飛鳥時代ころにベイエリアになりました。として重要になり、ますます栄えますが793年（都が平安京にうつる1年前）に難波宮がなくなると次第におとろえ、かわりに神崎が栄えるようになります。そして鎌倉時代になで河口が南の方へうつり、3つの遺跡は普通の農村になりました。

上津島・上津島南・島田遺跡の3つです。猪名川の河口近くにできた村が発展し、それから、難波宮が平城京の海の玄関口として重要になり、ますます栄えますが793年（都が平安京にうつる1年前）に難波川河口近くにある吹田市五反島遺跡などと、猪名川から運ばれてきた土のせい農村になりました。

けんた この建物、奈良時代のものにしてはすごいぶん立派だね。まるでお寺が役所のようにみえるけど、どこにあったのかなあー。

やよい 今の今在家町あたり、ちょうど府営団地のところで見つかったの。

けんた さっきの「津の国」と関係するかもしれないんだって。

やよい えっ、どんな関係があるの？

けんた 「津の国」の津ってどんな意味か知ってる？

けんた さあー？

やよい 津は「港」のこと、「摂津」は、その津をおさめるといいう意味があるの。

けんた よくわからないけど、とよなかに港でもあったのかな。

やよい 港は見つかっていないけど、そのころ猪名川の河口近くにあった上津島から島田のあたりは港を中心に栄えた町、今風にいうとベイエリアだったの。



▲ 発掘された上津島南遺跡

けんた えっ！ほんとっ？

なかでも上津島南遺跡の建物は重要だったみたい。

このときの発掘調査では、大切な品物を入れる箱のカギや役人のベルトにつける飾りもみつかったの。それから島田遺跡では、とてもめずらしい三彩という陶磁器もみつかったの。けっっこうにぎわっていたみたいだけど、ほかにはどんな建物があったのかな。



なになのみや
難波宮

難波宮は、大化の改新直後につくられたみやこ（長柄豊碓の宮）を土台につくられました。それ以来、平城京の海の玄関口の役割を担う第2のみやこへ発展します。みやこの近くには遣唐使や大陸からの使いが行ったり来たりする国際的な港（難波津）もありました。しかし、みやこが長岡京にうつるとあまり重要でなくなり、793年に廃止されます。



かわら
難波宮と同じ瓦

三重丸という、とても簡単なデザインですが実はこのもよう、難波宮専用の瓦にデザインされたのです。それと同じもようの瓦がでてくるということは、やっぱり難波宮との関係が深いこととなりますが、どうして上津島に配られたのかは、まだわかっていません。

やよい その手がかりは、瓦にあるみたい。
けんた 三重丸みたいなもようの瓦に？
やよい この瓦、難波宮の建物に使われた特別なものなの。それと同じものが上津島からもみつがっているから、難波宮と関わりが深かったって言われているの。
けんた じゃあ、上津島と難波宮、どんな関係なの？
やよい 残念だけど、その問題はまだわからないんだって。

上津島遺跡の倉庫
(復元模型)



▲ 上津島遺跡の倉庫

島田遺跡の奈良三彩



▲ 上津島遺跡で出土した
お金（和銅開珎）

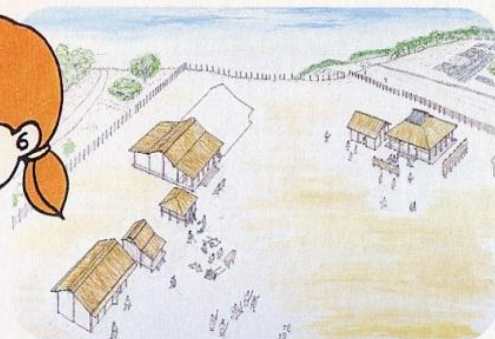


倉庫の柱

直径60cmもある柱は「よっこらせ」とたてるだけでもとても重いものです。倉庫はさらに頑丈につくるのもっと重くなります。それでは、地面がやわらかいと建物が沈んでしまうというわけで、柱が沈まないように柱の下に板や棒をおいたり、といった工夫をします。

やよい この模型のモデルになった倉庫もさっきの建物から北へ500mくらい離れたところでみつがっているの。
けんた へえー！こんな倉庫もあったのかあー。倉庫の中にはどんなものがはいつてたんだろう。
やよい ペイエリアっていうくらいだから、各地から運ばれてきたいろいろな品物がいってたかもね。
けんた でも、どうして上津島あたりがペイエリアになって、にぎわったんだろうね。

謎の建物群 ～曾根遺跡～



▲ 曾根遺跡推定復元図

けんた

上津島もわからなかったことがあったけど、それよりわからない建物が、曾根2・3丁目で見つかったっているんだ。

やよい
けんた

この写真の建物あとがそれね。平安時代はじめてころの建物らしいけど、100年もたたないうちになくなるんだって。

やよい
けんた

こんなに大きくて立派な建物が全部で6棟以上も建てたのにな？
見晴らしもよきそうだし、昔だったら大阪湾まで見えたかも。



やよい
けんた

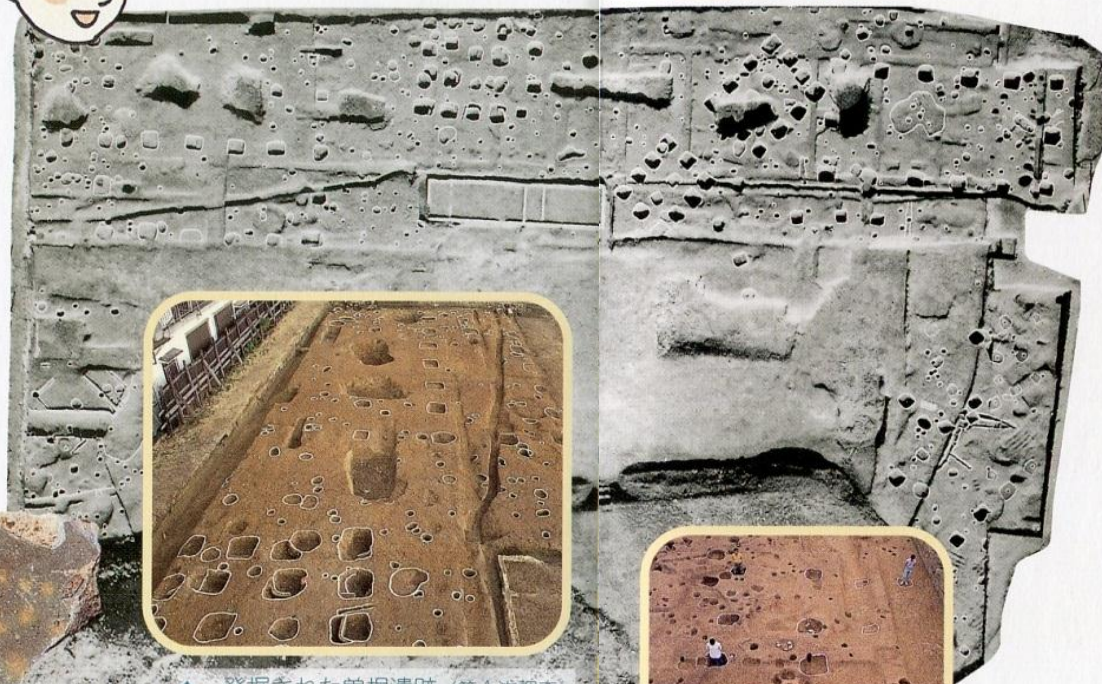
でも、人がくらすにはとても大きすぎるみたい。そうなんだ、こんなに大きい建物や倉庫が東西1000m、南北600m以上の広さでならんであるんだから。でもなあー。

やよい
けんた

いや、建物のまわりから井戸やごみ穴もみつかったいるんだって。だから本当はすごい豊かな「仲」さんがくらすんじゃないかって思っているんだ。

やよい

どうして、「仲」さんが住んだってわかるの。



▲ 発掘された曾根遺跡 (第1次調査)



▲ 発掘された曾根遺跡 (第5次調査)

二彩(?)のかけら

すてられていた食器

建物の近くには、みやこ風の皿や椀がたくさん捨てられていました。これらの食器は、曾根遺跡の人々がみやこにいる貴族をまねて宴会をしたときにつかっものかもしれない。



曾根遺跡

曾根遺跡の謎

曾根遺跡に巨大な建物群があらわれるのは、平安時代はじめてころのことです。そのころ難波宮がなくなり、摂津の重要性は低くなったと言われてますが、このころをさかいに、豊嶋郡はよく記録に登場するようになります。そんなときに曾根遺跡の建物群があらわれたのだから、なにが重要な役目をもっていたのでしょうか。でも、建物は100年もたたないうちになくなってしまふのが謎の一つ。それより、もっと大きな謎はその正体。豊嶋郡の役所が、豊嶋の開発に成功した領主の館が、と言われてますが、今のところわかっていません。



役所はどこだ？



役所があるかもしれないところ
(●マークのところ)

奈良時代	677年	摂津職がはじめて記録にあらわれる。
	793年	難波宮の停止に伴い、摂津職も廃止され、摂津国府がおかれる。
平安時代	805年	摂津国府を江頭（天満橋付近）にうつす。
	825年	摂津国府を豊嶋郡衙より南の地へうつす。
	844年	摂津国府を鴻臚館（旧難波宮付近）へうつす。

▲ 摂津・豊嶋の役所関係年表

やよい どうして、大発見になるの？
けんた だって、摂津国や豊嶋郡の役所は、まだみつかっていないんだよ。
やよい でも、場所くらいはわかっているんでしょ。
けんた 摂津国の役所は、難波宮の近くにあったらしいけど、いろいろ移動しているんだ。豊嶋郡のほうは、箕面市か池田市らしいけど、まだ見つかっていないんだ。
やよい じゃあ、曽根遺跡を役所にしよう。
けんた やよいちゃん、それもちょっと！



穂積遺跡

穂積遺跡は、主に弥生時代のムラと平安～室町時代の穂積村で有名ですが、遺跡の東がわでは、平安時代の建物やたくさんの国産陶磁器がみつっています。緑色や灰色のうわぐすりをかけた陶磁器は当時とても高価なもので、その地域でも政治の中心になるようなところに多く出土しますので、穂積遺跡の建物も重要な役所の施設だったのかもしれない。



お椀や皿のうらには「仲」の字が書かれています。字の書き方はバラバラで、2・3人で書いたことがわかります。でも、何のために同じ字を書いたのか、まったくわかりません。

けんた 近くでみつかった井戸から、「仲」って書かれたお皿やお椀が出るから。
やよい もしかしたら、「仲」さんが使っていた食器を井戸にいれたのかなあーって思うんだ。
けんた けんた君、やっぱりわたしはこのころの役所とか何か特別な目的のためにつくられた建物だと思う。
やよい やよいちゃん、そんなことになったら大発見になるよ！



井戸の底からでてきた椀や皿

ここは地下4m、井戸の底あたり。そんなところから、お椀や皿がおかれたままの状態で見られました。ちなみに、この井戸。深さ5mで板を組んでつくった超豪華版。そのうえ、この時代の井戸としては市内でもっとも深い記録をもっています。

けんた

いやー、ようやくほっとしたよ。

やよい

どうしたの？急い。

けんた

これまで大きな建物ばかり見てきたから、とよなかにはぶつづのムラとかがあったのかなあー、なんて思ってた。

やよい

だいじょうぶよ。ほら、この地図のとおり、とよなかにはたくさん

のムラがあったんだから。それに、このころの記録の中には豊中の地名と同じなまえの人々

けんた

が住んでいたらしいの。へえー。麻田連や服部連、豊嶋連という人も

住んでいたんだ。

読み人しらず
至かつま島熊山の夕暮れに
ひとりか君か山路越ゆるむ
しまくまやま
島熊山に
ちなむ歌
(万葉集)

奈良時代につながる豊中の地名

関係なさそうですが、意外に関係するのが古代人の名前と豊中の地名。たとえば、今の蛸池あたりは、むかし麻田とよばれていました。その麻田という地名は、麻田連といっしょです。それに待兼山や島熊山、それに猪名川は万葉集や古今和歌集にも登場し、古代から親しまれていたようです。

このほか、豊嶋郡にはどんな地名があったのでしょうか。平安時代の記録では、秦上・秦下・駅屋・桑津・大明・余戸・豊嶋の7つの郷(里)がありました。秦上・秦下は池田市畑に、桑津は伊丹市西桑津・東桑津にあたるといわれています。

まちかおやま
待兼山に
ちなむ歌
(古今和歌集)

いらはらのおふ君
つこの国のまつかねやまの
よぶこ鳥なくといまくといふ人もなし



けんた

ねえ、やよいちゃん。この地図、

やよい

少しおかしいね。

けんた

えっ？

ほら、江戸時代の道路と奈良時代のムラがいっしょに書かれて

やよい

いるだろ。

でも、ムラの近くに江戸時代の道があるなんてふしぎだね。本当だ。もしかしたら、もうこの時代にはムラとムラを結ぶ道ができてあ

遺跡に残る道の跡

この頃、とよなかの北には山陽道が、南には有馬道が通っていましたが、ほかにもたくさんの道がムラとムラを、山と海をつなぐように通ってました。左上の写真は能勢街道沿いで、右下は箕面街道の近くでみつかった道です。ただ、道といっても、アスファルトはない時代、昔のひとはこのような道をはだして歩いたのでしょうか。



▲ 本町遺跡の道



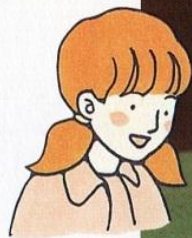
▲ 蛸池東遺跡の道



奈良～平安時代の ムラ・ひと・道

やよい
けんた
やよい
けんた
やよい

ちようと模型もけいになっているような掘立柱建ほったてはしら物に住んで、倉庫だってもっていたの。でも、そういう人はムラの中でもとても豊かな人じゃなかったの。そんなことはないよ。この時代だったら、そういう家が多いんだから。えーっ、本当！
本当よ。もっと裕福ゆふくな人なら、家のまわりに塀へいをつくったりするの。



ムラ のようす

しばはら 柴原ムラの家（復元模型）



倉庫（高床式）



すまい（主屋）



モデルになった建物

モデルになったのは、住まいと倉庫そうこがそれぞれ1棟ずつ。住まいの方は、今なら15畳の1LDKといったところですよ。家族4人でくらすには少しせまいですが、普通はこのような住まいが2棟くらいあります。倉庫の方は昔と同じく高床式で、6畳くらいの大きさなので、お米やいろいろな道具もいっぱい置けました。（写真は柴原遺跡）

たてあなじゆうきよ ほったてばしらたても 竪穴住居と掘立柱建物

「奈良時代の人々はどんな家に住んでいたのでしょうか。」と言われたら、みなさんはきっと竪穴住居というでしょう。でも、それは九州や中部、関東、東北地方のこと。近畿地方では一部の地域をのぞいて、みんな掘立柱建物に住んでいたのです。柴原ムラをはじめ、豊中では古墳時代後期（約1400年前）に竪穴住居と同じくらい掘立柱建物に住む人がふえ、奈良時代には竪穴住居を建てることさえなくなります。

ムラ人たちの食器



けんた

奈良時代のムラってどんなようすだったのかなあー。

やよい

やっぱりみんな竪穴住居たてあなじゆうきよでくらししていたんだろ。万葉集にある山上憶良やまのつくねのちからのうたじゃ、みんな苦労くろうしていたみたいだし。なんか、さびしそうだなあー。

けんた

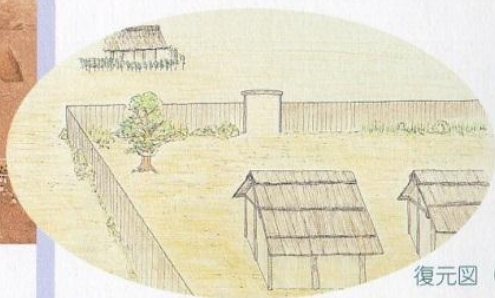
そうね。税ぜいをおさめて、その上みやこへ行って働かなくちゃいけないし、大変だったとおもっけど、でもみんな竪穴住居には住んでいないの。じゃあ、どんな家に住んでいたの。



塀のあと

へい 塀でかこまれた家

当時のムラ人の住まいは垣根かきねやかんたんな柵さくでかこまれていたようですが、蛭池北遺跡むしけのきたでは塀にかこまれた家が見つっています。当時の住まいで塀があるものはとてもめずらしいことです。もしかしたら、この家が蛭池北ムラの役所か村長むらぢょう（郷長）の家になるかもしれません。（写真は蛭池北遺跡）



復元図（蛭池北遺跡）



井戸は みんなのもの

一つのムラからみつける井戸いどの数はとても少ない。おそらくムラみんなが力をあわせて作り、そしてつがったのでしょ。

（写真は利倉南遺跡）

ムラの うつりかわり



古墳時代

645年 大化の改新



710年 平城京へみやこをうつす。



奈良時代

784年 長岡京へみやこをうつす。

けんた ムラのうつりかわりっていうけど、平安時代初めころまで、あまりかわってないね。そうね。ほとんどのムラが古墳時代から続いているみたい。

けんた 大きくかわったのは平安時代中ごろかな。大きなムラがなくなるみたいだけど。本当だ。ムラがバラバラになったみたい。でも、どうしてそうなるのかなあー。

ふしぎな平安時代

奈良時代のムラは、平安時代中ごろまでにほとんどなくなります。それでは、このあと人々はどこへいったのでしょうか。簡単そうで、なかなか答えにくい疑問です。というのも、平安時代中ごろのムラはあまり見つかっていないからです。おそらく、人々は水田がつくれそうなところをみつけて、いろいろなところに住みついたのでしょう。でも、そんなところにムラができるのは、それから100年もあとのこと。でも、その100年間の足どりをさぐるには、まだ時間がかかりそうです。



810年 薬子の乱



平安時代
(初めころ)

794年 平安京へみやこをうつす。

水田の開発と条里制

9世紀前半、豊中周辺では朝廷が主体となって水田の再開発を行ったようですが、そのときにどのくらい条里制が広がったのか、まだわかっていません。ただ、現在の水田区画に近い地割ができたのは、11世紀以降のこと。その成立には、10世紀以降の田堵と呼ばれる有力なムラ人たちが主体となった水田開発が大きな役割を果たしたようです。また、彼らは朝廷の有力者と結びつき、荘園制のきっかけをつくりました。

9世紀末

班田制は廃止

けんた このころの政治とかと、関係がありそうだね。平安時代中ごろって、律令制がしだいにくすれはじめたころよね。

けんた うん。その原因のひとつに、このころのムラ人がどんどん田畠をつくったり、耕しなおしていくことがあるんだ。

やよい もしかしたら、田畠をつくったりするためみんなムラからはなれていったのかも。

けんた そうかもしれないね、新しく耕したたんぼなら、自分のものになるし。それに税も軽くなるし。



平安時代
(中ごろ)

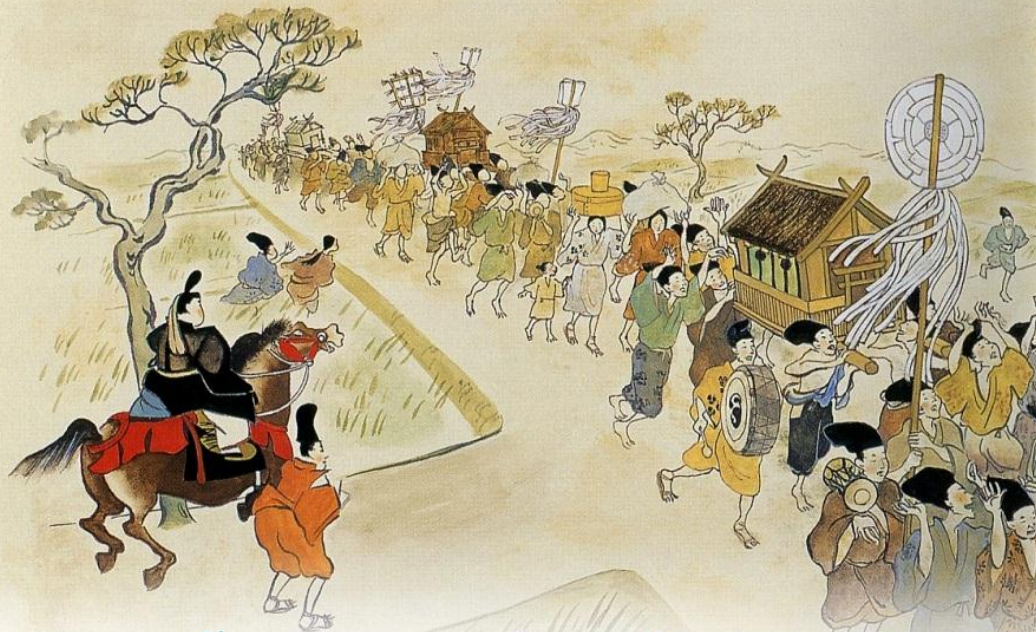
939年

藤原純友の乱

945年

シダラ神事件

やよい それに自分のたんぼの近くに住んだら便利ね。



けんた

あの人たちが、とよなかを
どんなふうに変えていくん
だろう。
とっても、楽しみだね。

やよい

元気そうだなだね。
あの人が、とよなかを
どう変えていくの。
とっても、楽しみだね。

けんた

へえー。あの行列が、平安
京の近くまでいくんだか
ら、貴族もびっくりだね。
もっと重要なのは、行列の
主人公になった人たち。

やよい

あの人たちは、自分たちの
力で新しい田島を耕して
豊かになることをうたいな
がら、平安京の方へ行進す
るの。

(八幡は種播く、いざ我らは荒田を開こう)

(シダラ米とその酒富める初めだぞ)



「シダラ神事件」って、どんな事件？



945年7月の末、川辺郡(いまの川西市や伊丹市)から豊嶋郡へお神輿3台をかついだ数百の人々がやってきました。そして、彼らは歌えや踊れやの大さわぎで平安京の方へ向かい、その途中にある石清水八幡宮でとつぜん解散するという事件がありました。この事件は人々がうたった歌から「シダラ神事件」と呼ばれています。事件のとくちょうは、これまでなかったシダラという神をかつぎながら、自らの力で田島を開き富み栄えることをうたう、新しいスタイルの農民たちが行列の先頭になっていることです。シダラ神事件は、同じころにおきた平将門や藤原純友の乱にくらべると有名ではありませんが、時代の先端を切り開こうとする豊嶋郡に住んだ無名の人々が記録に残したとても重要な事件だったのです。



金寺山で使われた瓦

かんけいじ とうしんそ
看景寺の塔心礎

お寺によくある三重の塔や五重の塔。そんな塔の真ん中には一本の大きな柱(心柱)があります。その柱を支える礎石が心礎。ところで、金寺山のお寺にも塔があったようです。その塔心礎が、今でも看景寺にのこっています。

やよい

逃げずに聞いてみようよ。

けんた

それにおかしな行列がくるよう。

やよい

なに、平安京の貴族みたい

けんた

うし、ムラはバラバラになるし、この先どうなっちゃうのかなあー。

やよい

でも、誰も消そうとしていない。どうしてだろう。

けんた

そのとおり。古墳時代に力をつけた豪族の子孫たちがつくれたって言われてるんだ。平安時代初めころまでは、ちゃんと守っていたのに。

やよい

金寺山のお寺って、飛鳥時代

けんた

の方向は、金寺山(本町8丁目)

やよい

あつ、火事。丘の上で燃えてる。

